

<<東北魂>>を鼓舞する  
電子新聞

発行所 株式会社遊無有  
〒207-0005  
東京都東大和市高木3-315-1-2-2  
http://www.yumuyu.com/  
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

# 東北復興

Rising up , TOHOKU!

無料

## 第90号

毎月発行

発行 2019年(令和元年)11月16日 土曜日

2019年(令和元年)11月16日 土曜日

### 【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

#### 【砂越 豊】

宮城県生まれ、66歳、経営  
コンサルタント、趣味は縄  
文研究、今年1月に『東北先  
史時代学』を提唱、東北から  
日本を変えることを標榜。また縄文遺跡保存活動として郷里の涌谷町の『長根貝塚保存活動』開始。映像プロデュース事業にも進出。



## 東北の埋もれた歴史を発掘する映像企画 第二弾

### 『鬼がつくった日本刀』 11/16から撮影開始

#### 全国に分散した奥州刀鍛冶の悲しい歴史を掘り起こす

#### 『鬼がつくった日本刀』 撮影開始

日本人で日本刀を知らない人はまずいない。しかし、日本刀のルーツが東北にあることを知る人は非常に少ない。おそらく東北人でもそうであろう。  
次の映像企画は、この日本刀の歴史を紐解くところから始まる。  
かつて、東北には「奥州



【鍛冶神像掛図】・・・鬼とされた奥州刀鍛冶

刀鍛冶」と呼ばれる職人集団がいたが、彼らが日本刀の作り手、担い手であった。しかし、彼らのその後には、迎える道は実に悲しい。住み慣れた東北の地を強制的に移住させられたのである。そこから、映像企画『鬼がつくった日本刀』は、予想もしないような深まりを見せるのだ。  
詳しくは、来年三月の公開を楽しみにしていただき

たいが、右の画像が彼らの行く末を如実に示している。この行く末を聞いて、憤らない東北人はいないだろう。そしてこの歴史を埋もれたままにして良いと思う東北人もいないだろう。  
**第二弾の撮影開始まで**  
筆者の郷里である宮城県涌谷町の七千年に亘る歴史を取り上げた映像を今年三月に上映してから約半年が

経過した。  
この半年間、次の映像企画をいろいろ模索してきたが、いよいよ今月十六日から、宮城県岩出山で撮影を開始するところまでこぎつけた。  
この間さまざまな紆余曲折があったが、映像世界はまったくの未経験者でありながら、無謀にも潜り込んだその世界をいろいろと勉強してきた。  
右も左も分らず、教えられないことを意味もよく分らず実行してきたというのが実情だった。  
そうした紆余曲折、反省を踏まえた映像企画であるので、少しは進歩したと自負している。

#### 東北の埋もれた歴史 を発掘する

それだけでなく、連続した映像企画を貫くテーマも

より明確となってきた。  
それは東北の埋もれた歴史を掘り起こすということである。  
『東北の消された歴史』  
と言いつても言い過ぎではないかもしれない。  
時の権力と戦い、負け続けた東北だが、裏返せば、かつては朝廷と三十八年間もの長い間戦い続けた実力を有していたということでもある。

他の地域でも戦いはあったが、適度なところで妥協して降伏したが、東北だけは降伏しなかった。  
しかも初戦は完全勝利したので、面子をつぶされた朝廷との戦いは長期に及び、ついに力尽きた。  
こうした戦いを踏まえて、歴代の政権は東北の再浮上の芽をことごとく、徹底的に摘んできたのだ。  
結果として、あらゆる歴史が消された。

この映像企画『鬼がつくった日本刀』も、消された東北の歴史のひとつだ。

『東北の埋もれた歴史発掘』は当新聞の今後の活動の主要部分を占めていく予定である。第二弾に続く第三弾も準備中



中鉢美術館



舞草刀 閉寂 (ふさちか)



## 第63回

### 水産業再興のための 料理レシピ紹介

#### 【サバのトマトソー スのせ】

福今日の試作は、タイムの香りを使った、サバのトマトソースのせ。オリーブオイルでニンニクとトマトを炒めたソースが美味です。とても手軽に出来ました。（松本談）



郷土料理愛好家  
松本由美子氏

【材料】 サバ切り身 4切れ、トマト 2個、ニンニクみじん切り 2片、玉ねぎ千切り、オリーブ油 適量、タイム 適量

【作り方】 オリーブオイルをひいたフライパンにタイムの枝を入れ、油に香りを利用して取り出します。そのフライパンで玉ネギをさっと炒めて皿に盛ります。サバを両面焼いて、玉ネギの上に乗せます。同じフライパンにオリーブオイルを少し足して、ニンニク（みじん切り）、トマト（みじん切り）を炒め、塩・コショウで調味します。そのソースを盛ったサバの上にかけて、タイムを乗せるとおしゃれな出来上がり。ニンニクとトマトのソースが美味しいです。（松本談）

## 日本を取り巻く漁場では「魚種交代」という現象が起きている！

秋の味覚を代表するサンマの不漁が食卓に打撃を与えている。魚屋の店頭や海鮮料理屋で見かけるのは小さなサンマばかり。イワシやスルメイカの漁獲も不振が続く。しかし全ての魚が捕れなくなっているのではなく、マサバなどは漁獲量が増えたようだ。どうやら日本を取り巻く漁場で「魚種交代」という、数十年規模の変化が起きているようだ。



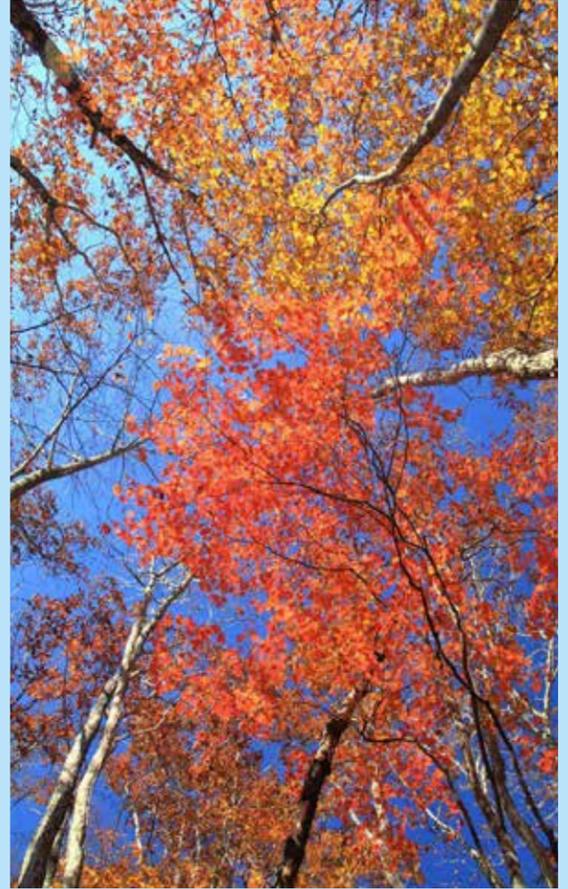
サンマ不漁記事



不漁のスルメイカ



豊漁のマサバ、ついでにゴマサバ画像も



写真でお伝えする  
**東北の風景**  
**紅葉**

写真撮影 尾崎匠



# 台風被害から どう身を守るか

## 相次いだ台風被害

これから来る可能性もあるが、また振り返るには早いのかも知れないが、今年はいのちの大きな被害が相次いだ年だった。まず九月九日に千葉市付近に上陸した台風一五号は、千葉市内を中心に広い範囲に停電と断水をもたらした。被害が広範囲に亘ったことから復旧にも時間が掛かり、断水が九月二五日まで二週間以上に及んだ地域もあった。

生じた。断水の被害はとりわけ甚大で、宮城の丸森町や福島市の相馬市の一部などに復旧していない地域も存在する。一月二日で一か月になるが、いまだ合わせて二七〇〇もの人が避難生活を送っている。

一〇月二日に伊豆半島に上陸した台風一九号は関東地方から東北地方南部を縦断し、福島県で三二人、宮城県で一九人、千葉県で二二人など、実に死者九五五人という甚大な被害をもたらした。広い範囲で河川の氾濫が相次いだほか、土砂災害や浸水被害が発生した。人的被害に加えて住宅被害、電気、水道、道路、鉄道施設といったライフラインへの被害や交通障害も多数発

生じた。このほか、海でも記録的な高波が観測され、過去最高潮位を超える高潮を観測したところがあった。いろいろな要因があるのだから、台風の規模の割に雨の量や風の影響が大きく、被害が拡大したように見える。

数が増え、台風そのものの規模も大きくなっているという印象がある。しかし、過去の台風のデータと台風の発生数、接近数、上陸数などを見ても、今年が特に多かったというわけではない。

ただし、記録的な雨と風に見舞われたのは事実である。一〇日から三日までの総降水量が、神奈川県箱根で一〇〇〇ミリに達したのを始め、一七地点で五〇〇ミリを超えた。三時間、六時間、一二時間、二四時間降水量の観測史上、一位の値を更新した地域も多数あった。風についても、東京都の江戸川臨海で観測史上第一位を更新したのを始め、七か所で最大瞬間風速が四〇メートルを超えた。この他、海でも記録的な高波が観測され、過去最高潮位を超える高潮を観測したところがあった。いろいろな要因があるのだから、台風の規模の割に雨の量や風の影響が大きく、被害が拡大したように見える。

職場を出たのは二二時頃だったが、その頃には雨風共に強くなっていた。ただし、レインコートを着て自転車に乗ることはできないので、雨風が強くなってきたので、自転車で帰路に就いた。職場近くの広瀬川は水量が増えて河川敷まで水に浸かり、川幅がものすごく広く見えた。

「命を守る行動」とは 今回の台風のうち、最も大きな被害をもたらしたのが台風一九号であることは間違いないが、とりわけ福島県内で三二人もの死者が出たことは衝撃的であった。いったいどうしてこれほど多くの人が命を落とすことになったのだろうか。

すなわち、危機感を覚える必要が、そのためににはスマホの防災アプリの活用をお勧めしたい。「NHKニュース・防災」、「Yahoo!防災速報」、「800防災アプリ」、「特務機関NERV防災」などがお勧めである。

平時の情報収集も重要である。各自治体や国土交通省が作成している「ハザードマップ」を確認して、自分の住んでいる地域にどのような危険があるのか、特に今回のような風水害の際にどこにどのくらいの浸水が想定されているのか、その上で安全な避難ルートはどこなのかをしっかりと把握しておく必要がある。

既に道路が冠水している場合の車での避難の危険さも、今回のこの福島県での状況からは分かる。車は雨や雪といった悪天候の中でも走るのに、水には強いように思われがちだが、それはあくまでも上から降ってくる雨や雪についてである。足元からの水には実は弱い。ドアよりも水位が高ければ室内に浸水してくるし、さらに水位が高くなると水圧でドアが開かなくなり脱出が困難になる。エンジンルームに水が浸入し、エアクリナーまで水に浸かると、燃焼に必要な空気を取り込めず、エンジンが停止する。後部のマフラーが水に浸かると排気ガスが排出されず、やはりエンジンが停止する。こうなるともう車に乗ってはいけません。取れなくなると、冠水の中車で移動できる限界の水深は、マフラーの高さより下でギリギリということになる。そのことも肝に銘じておかないといけない。

これだけ台風による大きな被害が相次いだことで、今年には台風の発生数や上陸

も、東京都の江戸川臨海で観測史上第一位を更新したのを始め、七か所で最大瞬間風速が四〇メートルを超えた。この他、海でも記録的な高波が観測され、過去最高潮位を超える高潮を観測したところがあった。いろいろな要因があるのだから、台風の規模の割に雨の量や風の影響が大きく、被害が拡大したように見える。

我が身を振り返ってみて、今回のこの台風を甘く見ていたことを反省している。東北にいて、台風に直撃されることはほとんどなく、どこかよそに上陸した台風が勢力を弱め、速度も上げて通過することが多いため、今回も恐らく大したことはないだろうとの甘い読みがあった。もし今回の台風が「強い」ではなく「非常に強い」や「猛烈」であったら、河川の増水や住宅街の冠水はさらに激しいものだったかもしれない。そのような命の危険を伴ったかもしれない。

今回のこの台風を甘く見ていたことを反省している。東北にいて、台風に直撃されることはほとんどなく、どこかよそに上陸した台風が勢力を弱め、速度も上げて通過することが多いため、今回も恐らく大したことはないだろうとの甘い読みがあった。もし今回の台風が「強い」ではなく「非常に強い」や「猛烈」であったら、河川の増水や住宅街の冠水はさらに激しいものだったかもしれない。そのような命の危険を伴ったかもしれない。

今回のこの台風を甘く見ていたことを反省している。東北にいて、台風に直撃されることはほとんどなく、どこかよそに上陸した台風が勢力を弱め、速度も上げて通過することが多いため、今回も恐らく大したことはないだろうとの甘い読みがあった。もし今回の台風が「強い」ではなく「非常に強い」や「猛烈」であったら、河川の増水や住宅街の冠水はさらに激しいものだったかもしれない。そのような命の危険を伴ったかもしれない。

今回のこの台風を甘く見ていたことを反省している。東北にいて、台風に直撃されることはほとんどなく、どこかよそに上陸した台風が勢力を弱め、速度も上げて通過することが多いため、今回も恐らく大したことはないだろうとの甘い読みがあった。もし今回の台風が「強い」ではなく「非常に強い」や「猛烈」であったら、河川の増水や住宅街の冠水はさらに激しいものだったかもしれない。そのような命の危険を伴ったかもしれない。

今回のこの台風を甘く見ていたことを反省している。東北にいて、台風に直撃されることはほとんどなく、どこかよそに上陸した台風が勢力を弱め、速度も上げて通過することが多いため、今回も恐らく大したことはないだろうとの甘い読みがあった。もし今回の台風が「強い」ではなく「非常に強い」や「猛烈」であったら、河川の増水や住宅街の冠水はさらに激しいものだったかもしれない。そのような命の危険を伴ったかもしれない。

今回のこの台風を甘く見ていたことを反省している。東北にいて、台風に直撃されることはほとんどなく、どこかよそに上陸した台風が勢力を弱め、速度も上げて通過することが多いため、今回も恐らく大したことはないだろうとの甘い読みがあった。もし今回の台風が「強い」ではなく「非常に強い」や「猛烈」であったら、河川の増水や住宅街の冠水はさらに激しいものだったかもしれない。そのような命の危険を伴ったかもしれない。

今回のこの台風を甘く見ていたことを反省している。東北にいて、台風に直撃されることはほとんどなく、どこかよそに上陸した台風が勢力を弱め、速度も上げて通過することが多いため、今回も恐らく大したことはないだろうとの甘い読みがあった。もし今回の台風が「強い」ではなく「非常に強い」や「猛烈」であったら、河川の増水や住宅街の冠水はさらに激しいものだったかもしれない。そのような命の危険を伴ったかもしれない。

今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

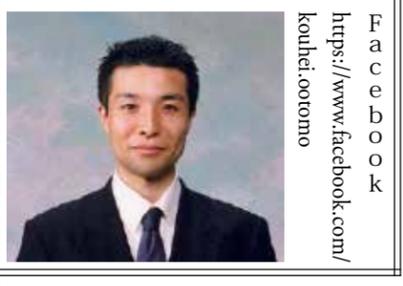
今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

## 執筆者紹介

大友浩平 (おおともこうへい)  
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。  
「東北ブローグ」  
http://blog.livedoor.jp/anagnasi/

Face book  
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo



今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

今年には台風の発生数や上陸

# ケルティック・ミュージックの舞台たる東北の事

本誌が創刊された二〇一二年当初、私がしばしば東北とアイルランド、スコットランドといった西欧の地域の比較をしたり、また自分が趣味としているアイルランド音楽の話題や写真を載せたりもしていた事を思い出す。実のところ、現在もほとんどそれらについての想い・愛着は変わっていないのだが、あまりに地域の共通性だとか繰り返しているのも野暮であるし、音楽に関してはいくまで個人の好み・趣向のものなので文章でいくら説明してもその魅力はわかってもらえない、聴いてもらおうしかない、と考えて近年はほとんどこれに関連して書く事はなくな



奥羽越現氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始める東北好きである。

つてしまっていた。しかし、その後一〇年近くたった現在、スコットランドの英国からの独立運動については英国のEU離脱を巡っても世界中に周知の事となり、またそれに呼応するように周辺ケルト圏への関心も高まり、また当地域の音楽シーンもまた勢いを強めていると聞く。

どういう訳か遠く東洋の島国・日本においても「ケルト圏の音楽」熱はここ一〇数年、衰えを見せない隆盛ぶりだ。隆盛といつても、前述の通り特にマイナーな音楽に関しては興味のない人にはなかなかその実感に届かないだろうが、おそらくジャズ・ロック・演歌やあらゆる民族音楽の中でも、ここ一〇年二〇年で情勢が最も変化したジャンルが、このケルティック・ミュージックである。しかしながら特に日本での一時のブームに終わらない、その演奏形態や技術、コミュニティが新世代にも引き継がれるような一大ジャンルとして定着しつつあるその動きについて、上手く解説した記事を私は知らず、またその音楽コミュニティは今や日本全国に存在しながら、その発展には東京などの大都市部に比べて地方は不利であり格差が生じている、という問題点について

言及するコラムなども未だ目にしない。そこで本稿では、あらためて自身が自身なりに長く関わってきたケルト圏の音楽と、それを東北の各地で演奏し人々にその魅力を伝え広めようと奮闘する音楽家たちの姿にも焦点を当てながら、東北の変化してゆく未来の一つの可能性を探してみたい。

\*

アイルランドをはじめとする「ケルト圏」の音楽とは何か、甚だ才不足ながらあらためて解説してみたいと思う。それはアイルランド、スコットランド、ウェールズ、イングランド・コーンウォール地方、フランス・ブルターニュ地方、スペイン・ガリシア地方などの所謂ケルト民族の文化を色濃く残す地域に伝わる音楽である。ただし「ケルト音楽」という呼び方には注意が必要だ。というのも、ケルト民族、という概念自体が近代以降に現れたもので、学問的な定義が難しく、幻想的概念であるとも言われてきたからである。かつて現在のフランス中心に広く分布し、多くの共通項を持ちながら単一民族であった事実もなく、そして各地域がケルト以後も長い歴史の中で違う特色の音楽を形成してきたのであって、それをケルトとひと括りにするのは誤りである、という見解が長く為されてきた。

東北人にわかりやすい例えでいえば、津軽三味線や岩手の鹿踊りの囃子、最上川舟唄などを「縄文音楽」とか「えみし音楽」などと呼ぶ者はいない、ということころだろうか。確かに、アイルランド人がケルト民族であった古代、現在のアイルランド音楽が演奏されてきた訳ではないだろう。至極、まっとうな話である。しかしながら、これらの地域の伝統音楽には、隠しきれない、紛れもなき共通点を感じられるのも間違いない事だ。民族と音楽が無関係ならば、共通する音楽がイングランドやフランス本国に広がっていてもいいはずだが、そうはならなかった。彼らの音楽には独特の魅惑的なうねりや高揚感があり、それは既存の国境を越えた「ケルト的」なるもの、古代から遺伝子に刻まれたかのように継承されてきた何か、としか捉えようのないものである。(しかしこれも実際に聴いていただく以外にないが) さて、ケルト音楽は書くまでもなく民謡である。民謡といえば古臭い音楽として若者に疎まれる「ダサイ」ジャンルの代名詞だ。ところがその本来「ダサイ」は少ならずあり、二〇〇〇年代後半にはアイリッシュパブでのセッションが広く行われ、またこのジャンルでプロを目指す音楽家が出てくる、その胎動となっていたのである。

めとする、「ケルト圏」の伝統音楽も元来は、地元若者たちに疎まれ、見向きもされない「ダサイ」ジャンルに違いはなかった。ところが、七〇年代に大変革が訪れる。この音楽に新風を吹き込み、「カッコいい音楽」にしてしまふ天才の登場である。アイルランドのドナル・ラニー、ブルターニュのアラン・ステイターは彼らを育てたロックミュージックの起源にケルト音楽がある事を知り、その脈を鋭敏に感受したのかも知れない。特にこれ以降、アイルランドはエンヤ、アルタンなどインパクトのある音楽家の存在やギネス、アイリッシュパブといった明確な文化が徐々に日本にも浸透していった事によって着実に知名度を高めていきケルトIIアイルランドと認識される程の時代が長く続いてきたのである。日本ではザバダックや遊佐未森を始め、早くからアイルランド音楽に魅せられた音楽家が少数ながら存在した。そして一般の間にも、未だコミュニティ形成には至らぬまでも、個人レベルでこの音楽に接近していった者は少なからずあり、二〇〇〇年代後半にはアイリッシュパブでのセッションが広く行われ、またこのジャンルでプロを目指す音楽家が出てくる、その胎動となっていたのである。

役は近年、長らく安定の感があるアイルランドに替わって「隣国」スコットランドに移りつつあると、ネット上で読める『世界のケルト音楽を訪ねて』にて日本のパウロン奏者トシバウロ氏が綴っている。実際に、日本でもスコットランド音楽に拘る演奏家が急増している感があるのだが、その背景には何があるのか。スコットランドは伝統音楽分野においてはアイルランドに遅れを取り、つい近年まで「何故そんな音楽をやってるんだ」というような声が多数派だったという。スコットランドの有名アーティストがアイルランドにケルト音楽を学びに行く、というような事も普通にあつた。それが今や、近年美術デザイン分野で知られた大都市グラスゴーを中心に毎夜無数のセッションが繰り広げられるケルティック・ミュージックの先進地と化しているというのである。この波はいくつもの要因が重なって生まれたようだ。まずは周知の、ここ数年に最高潮の盛り上がりを見せた独立運動である。三百年の間「英国の一地方」に位置づけられてきたスコットランドにとって、初めて独立国・アイルランドと同様に民族の象徴、アイデンティティの表現としての音楽に目覚めたのだ。

二つ目に、スコットランド政府による助成金の制度がある。八十年代まではケルト音楽方面に割かれていた文化振興の予算が、ケルト音楽の発展の財源として降りるようになった。これにより多くの人材を刺激し取り込むコンペなども盛んに企画できるようになったのである。そして三つ目に、アイルランドとは違うスコットランド独自の音楽特性がある。アイルランド音楽の広まった要因として、演奏しやすいキー、即ち良い意味での単純明快さがあるが、これに対しクラシックが盛んで長らく他ジャンルに曝されてきたスコットランドの音楽は複雑さがあり、意外性に富んでいる。かつて日本のケルトファンからも敬遠されてきたその特質こそが、現在の実験的・挑戦的性格につながり、民族の反骨気質に相乗してケルティック・シーンを塗り替える原動力となつていっているのだ。この勢いは近年独自のウイスキーとともに音楽の復興の夜明けを迎えているという、ウェールズへと続いているのである。

ではケルティック・ミュージックブームの最中にある日本、なかなか東北に位置づけられてきたスコットランドにとつて、初めは独立国・アイルランドと同様に民族の象徴、アイデンティティの表現としての音楽に目覚めたのだ。二つ目に、スコットランド政府による助成金の制度がある。八十年代まではケルト音楽方面に割かれていた文化振興の予算が、ケルト音楽の発展の財源として降りるようになった。これにより多くの人材を刺激し取り込むコンペなども盛んに企画できるようになったのである。そして三つ目に、アイルランドとは違うスコットランド独自の音楽特性がある。アイルランド音楽の広まった要因として、演奏しやすいキー、即ち良い意味での単純明快さがあるが、これに対しクラシックが盛んで長らく他ジャンルに曝されてきたスコットランドの音楽は複雑さがあり、意外性に富んでいる。かつて日本のケルトファンからも敬遠されてきたその特質こそが、現在の実験的・挑戦的性格につながり、民族の反骨気質に相乗してケルティック・シーンを塗り替える原動力となつていっているのだ。この勢いは近年独自のウイスキーとともに音楽の復興の夜明けを迎えているという、ウェールズへと続いているのである。

ブでのセッションも行われてきた。それから活動や舞台は東京に比べれば小規模であり、また音楽家も都市に集中せずに岩手県各地など他県にも散在し現在も各々が貴重な存在である。近年、二十代の若い新世代の活動が目立つようになり、また岩手県盛岡市や大船渡市、更には青森県弘前市など、仙台に止まらない活動の広がりを見せている。その背景には各々の縁や信念によって居を構えた地域、本来保守的な東北の中小都市においていかに欧州の、決してメジャーではない音楽を認知させ広め得るかという音楽家たちの苦心がある。今後日本で最も人口が減っていくと、いま誰もが承知する東北。少数の努力も空しくケルト音楽はいずれこの地から消滅し、結局東京などへの集中に終始してしまうのであるのか？

ここでやはり、スコットランドを思い出してみるのだ。「英国の一地方」に甘んじている間、スコットランドは音楽もとも目の目を見なかった。己の独自性に気づき立ち上がったこそ、民族とその魂としてともに輝きを取り戻したのである。日本ではまだまだ高貴な趣味と捉えられているのが現状だが、個人的にはケルト音楽はプロレタリアートの音楽であり、虐げられてきた民衆の文化であると長年感じてきた。そういう意味では長い逆境の歴史と風土を持つ東北にこそ根付いて欲しい音楽だ。私のような地位も肩書きもない人間こそが、普通にバイオリンを民衆の楽器「フィドル」として手に取つていい。「日本の一地方」である事をやめ、東北として立ち上がる事。東北でもやっていると誇りを持つ事。そうすれば例えいつか東京でこの音楽が飽きられ、見向きもされなくなつたとしても、この厳しき大地の魂の音楽として一人一人の心に染み渡り愛され続ける。その時初めて、ケルティック・ミュージックは私たちの風土とともに静かに栄える、東北の文化となるに違いない。



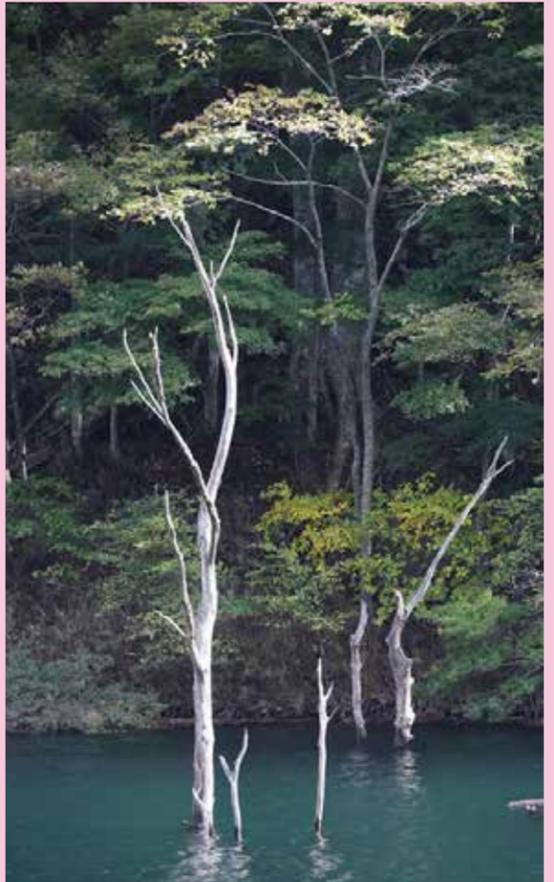
今年10月、大船渡市で初めて催されたケルティック・セッションにて



ナツハゼの紅葉



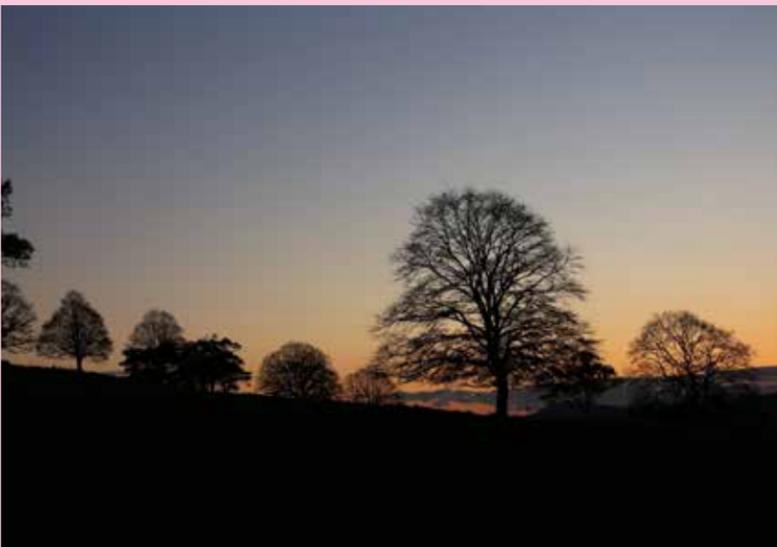
夕暮れの猫神社



エメラルド湖



ニシキギの実



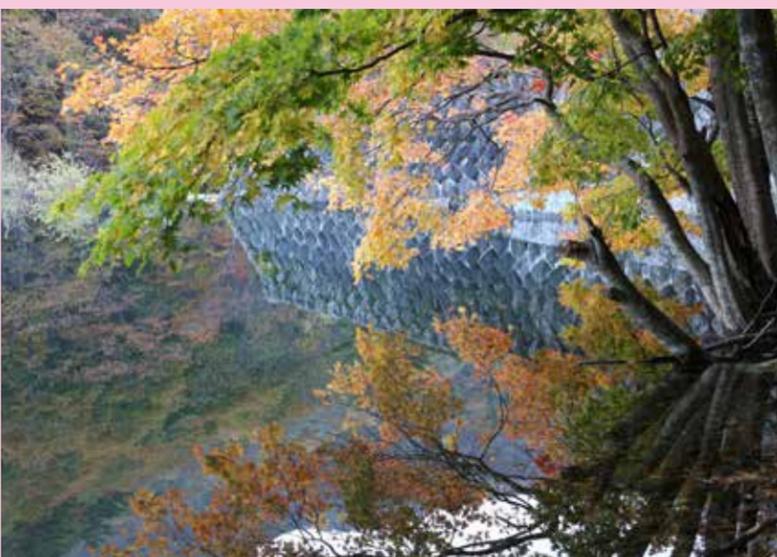
高清水夕景



夕暮れと牛たち



ヤマハマナスの実



水鏡 2

## シリーズ 遠野の 自然

### 「遠野の 立冬」

**遠野  
1000景より**

今年もまた「立冬」がめぐって来た。月日の進行は、古い加速とともにどんどん速くなるように感じる。今年の巨大自然災害は大洪水をもたらした台風。予報が外れ、関東だけでなく長野県や宮城県に大きな被

害をもたらした。いまでも被災に苦しむ住民がいる。気候変動のせいで台風が大型化したと大騒ぎするが安定した自然などはもともとない。それは人間の勝手な願望にすぎず、常に変化に身構える必要がある。

人間の思惑など気にも留めず、多少の変動を伴い列島の四季は進行する。その大きな循環が確実に回転することに、他の動物や植物とともに感謝すべきである。





牡蠣鍋はほんと美味かった！

# 【第41回三陸酒海鮮会(11/9)】 東北地酒も牡蠣鍋も最高！ ご参加のみなさんありがとうございました

見よ！この東北地酒ラインアップ。純米酒以上の厳選された東北地酒。地元でもなかなかお目にかかれないという東北地酒が並んでいる。  
二十名弱の参加者に一升瓶十本。ひとり平均五合以上の割り当て。これが三時間飲み放題というのだからコスト最高。お店の協力なしにはとても無理。焚火家さん、いつもありがとうございます！  
海鮮は旬の牡蠣鍋とそれ以外にも食べきれないほどの海鮮がどんどん出てくる。牡蠣鍋は特に美味かった。  
筆者もあちこちの日本酒の飲み会に参加するが、やはりこの会が一番だ。  
メに『流し』の無料サービスまでついた。リクエスト多数で大盛り上がりだった。足掛け七年も続いている大震災からの復興支援の飲み会はそんなに多くないが、さらに継続中。



“流し”もあり！



当日の東北地酒ラインアップ



元気な女性陣



宮城の伯楽星と乾坤一



人気の刈穂と阿櫻



日本酒大好きオジサンたち



岩手のAKABU



常連の写楽と日高見